

事業所名 : スマートホーム・パティオ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ		
所在地	〒026-0052 釜石市小佐野町2-3-39		
自己評価作成日	令和7年10月27日	評価結果市町村受理日	令和8年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、グループホーム1ユニットの施設になります。  
 施設周囲には保育園・地区応援センターがあり、季節行事等での交流を行っております。また、近くにスーパーもあり、個別で買い物へ出かけることも可能です。  
 面会・外出外泊は、入居後も、ご家族様・利用者ご本人様の関係性が変わらず続くことを願い、制限なく行っており、多くのご家族様が週末など面会に来ていただいております。  
 日常生活では、利用者様へ過度なストレスを与えないよう、体調や気分に合わせて、日課の無理強いをしりせず、自由に落ち着いた生活を送れるよう意識し、援助を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は釜石インターチェンジの近くにあり、岩手県釜石地区合同庁舎や市立図書館、スーパーなど生活関連施設が多い地区に立地している1ユニットのグループホームである。建物は2階建てで、2階がグループホームとして利用されている。空間は広く、ゆったりとしており、広いウッドデッキでは利用者が日光浴やプランターでの野菜作りを楽しんでいる。家族との面会も制限がなく、利用者のペースに合わせた介護を心掛けている。開所以来の事業所理念「笑顔とおもいやりでみんなの中に和」を基本に、スタッフ間の話し合いのもと、事業所理念のより具体的な取り組みとして3項目を掲げ、日々のケアにつながるよう努めている。家族の玄関からの出入りは比較的自由に行っており、近隣の家族は仕事の行き来の間でも、時間を見つけて訪問している。ハロウィンに近隣の保育園児が訪れ楽しい交流の場となっているほか、「読み聞かせ」のボランティアも訪問してくれており、地域との交流も積極的に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はホールに提示し共有しているが、日々の業務や日常の中で、指導や注意を行う際に、理念に示してある言葉を用いれ説明指導を行うことで、より理念を意識でき実践できるようしている。	開所以来の事業所理念「笑顔とおもいやりでみんなの中に和」を、基本的な考え方として大切にしている。令和5年には、スタッフ間の話し合いのもと、事業所理念のより具体的な取り組みとして「①言葉使い意識する ②利用者のペースを意識し介助する ③利用者の尊厳保持を意識する」の3項目を掲げ、日々のケアにつながるよう努めている。	毎年の事業計画を踏まえつつ、職員との意見交換などをもとに、左記①②③の中から項目を順に1つずつ選び、四半期単位あるいは月間の目標として取り組むなど、職員が着実に進めていけるような工夫を加えていくよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年より外部の慰問を解禁しています。近隣の保育園との交流会・小佐野地区の公民館まつり見学等行っています。公民館まつりで知り合った「読み聞かせの会」の方々にクリスマス行事として慰問に来ていただき少しづつだが外部との交流が増えている。	小佐野町内会に加入し、今年はハロウィンに近隣の保育園園児が訪れてくれたことで、楽しい交流の機会となった。さらに「読み聞かせ」のボランティアも訪問してくれている。以前は小佐野地区の公民館まつりを見学していたが、エレベーターのない建物の3階で開催されるため、参加が難しくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通し、認知症理解・支援を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	前回の外部評価以降、対面での運営推進会議を実行できている。利用者の状況や施設の活動を報告し意見をいただいている。	運営推進会議は、町内会長や民生委員、近隣の保育園長、交番所長、市地区生活応援センター職員、地域包括支援センター職員、運営法人常務、管理者、ケアマネジャーによって構成され、現在は対面で開催されている。会議では、事故や活動の報告に加え、利用者一人ひとりの詳細な状況についても共有している。外国出身の職員も採用しており、例えばごみの出し方の話を民生委員からアドバイスを得るなど、委員からの意見を役立てている。	地域の小・中学校との交流を一層促進するために、先生方の運営推進会議委員としての参加についても、今後検討していられるよう期待したい。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	釜石市の高齢介護福祉課へ書類の受け渡し等で訪問している。運営推進会議に地域包括・地区応援センターの方々に参加していただき施設の状況等共有している。	書類の受け渡しのため、週に1度ほど市役所へ足を運んでいる。メールで届いた書類の不明点についても直接確認できるため、市職員の方々と顔の見える関係ができています。さらに、市主催の介護事業者の集まりに参加し、情報交換に加えて制度改正などの説明も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に委員会を開催し見直し検討を行っており、ジョブメドレーを利用しweb研修を行っている。外部研修へ参加も検討していきたい。	「身体拘束廃止に関する指針」を定め、3か月ごとに身体拘束廃止委員会を開催している。職員は民間事業者によるオンライン動画研修を受講し、理解と実践の向上に努めている。夜間1名体制の利用者ケアの対策として、センサー1機を備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	web研修にて高齢者虐待を学び、事業所内での虐待が見過ごされることがないように務めている。必要があればスタッフ会議や個別での話し合いを行い防止に努めたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者の研修が今後必要。個々の必要性はケアマネジャーと相談検討を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時から、相談や質問を気軽にできる環境作りに気をつけている。契約時も質問をこまめにとり説明している。その際気づかなかったことは電話や面会時に対応している。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時に意見・要望を承りました。申し送りノート等で共有している。	利用者のご家族が多く訪問していただき、面会時にはさまざまな意見や要望をお聞きしている。家族の玄関からの出入りは比較的自由に行っており、近隣の家族は仕事の行き来の間でも、時間を見つけて訪問していることから、事業所からの情報提供も臨機応変に行っている。家族からは、居室へのエアコン設置についての相談もあり、事業所として来年度の設置を計画している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議で意見・要望を聞き取り、毎月行っている社長も参加する管理者会議にて共有している。	毎月行う職員の「スタッフ会議」では、職員からの意見や提案を聞き情報共有、その内容を毎月の管理者会議(社長、常務、各事業所管理者、介護支援専門員で構成)にて共有している。段階のリスク対応やセンサーによる転倒予防など、提言を踏まえ反映している。	当初は10分程度の短時間から行う形でも良いので、職員一人ひとりの個人面談の機会を設け、管理者と職員の間で本音や意見を交換し合うことが大切であり、今後の検討及び実践を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格に応じた手当の支給、勤続年数に応じた昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休の受付等環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ウェブ研修を中心に個々のスキルアップに努めている。外部研修への参加も今後増やして行きたいと考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	定期的に行っているスタッフ会議内で、ケアマネジャーより他事業所の情報や取り組みを聞き日々の仕事に反映している。それ以外にも外部研修への参加を増やし、同業者との交流の場を増やしていきたいと考えている。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日々の会話や様子観察を通し困りごとや不安がみられたら、管理者・スタッフで共有し管理者が個別に話を聞きその内容を共有し解決に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	常に電話・面会時の相談を受け付けている。必要に応じて時間を合わせ管理者・ケアマネジャー・ご家族で面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約時にご家族の今後の希望を聞き把握を必要に応じてアドバイスを行っている。入居後も、ご家族・利用者の状況に合わせたサービスの提案・導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々のコミュニケーションを大事に考え、入居入所者の悩みや希望に沿ってスタッフと利用者が一緒に解決できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会・外出・外泊に制限を設け、入居後も家族関係が変わりなく続くように願っていることと、ご家族の面会時にはスタッフからお声がけをし普段の様子や出来事を報告をし共有している。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的に行っているスタッフ会議での情報やご家族様の面会時の会話や相談、本人へのモニタリングを基に介護計画を作成している。また利用者の状況に合わせプランの見直し変更を行っている。	利用者の中には、もともと使用していた携帯電話で家族や知人と連絡を取っている方もいる。友人も高齢となり、以前ほど頻繁ではないが、来所してくださっている。訪問してくれた方には「また来てください」とお見送りをしている。さらに、2カ月ごとに訪問理美容師が来所し、新たな馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症の強弱にかかわらず、分け隔たりなく一緒に生活している。利用者の中にご夫婦が二組おり、ご夫婦の関係性も配慮し皆で生活しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後の相談も受け付けており、必要に応じて現ケアマネジャーや関係機関への情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一対一のケアの中で、自然な会話で希望や意向の聞き取りを行うことや、ご家族の面会時などに情報提供していただき申し送りノート等で共有し必要に応じスタッフ会議の議題にあげ検討している。	一人ひとりと向き合える時間には、率直な思いや気持ちを語ってもらえるよう心掛けている。特に夜間の時間を職員は大切にしており、言葉での意向把握が難しかったり、話が一方的になったり、などもあるが、就寝までのこの時間を効果的に活かしている。把握した情報は、申し送りの中で職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にケアマネジャーの情報を基に実態調査を行っていることと、ご家族からの情報提供を基に書面でスタッフへ共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の観察や記録を基に心身状態等把握し、必要に応じスタッフ会議で検討し、検討内容はご家族へ共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ会議での情報交換、ご家族の面会時や電話での情報交換、日常のケアのモニタリングを基に介護計画を作成している。また、利用者の状態、ご家族の要望の変更に合わせて見直しや次期の介護計画の参考にしている。	毎月のカンファレンスや全体会議において利用者の日々の様子を確認し、介護支援専門員がモニタリングをまとめてケアプラン案を作成している。入居後、利用者の状態が安定している場合には、短期は6カ月、長期は1年を目安に計画の見直しを実施している。	居室担当者を定め、普段の生活状況を利用者家族に写真やコメントを添えてお便りをお届けし、そのやりとりの中で意見をいただく仕組みを取り入れることも、介護計画への意見反映面でも効果的である考えられます。また、職員が利用者へのケアをより意識するきっかけにもなり、一定期間ごとに担当を交代することで、職員にも多様な視点も生まれるものと考えられます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の観察と記録から本人の状態把握に努め必要に応じスタッフ会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・ご家族の相談を受けたいので、できる限り希望に答えたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議にて意見交換や情報の共有を行っている。近隣にある保育園の慰問、運動会やお祭りの見学等地域との交流が増えている。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療機関の受診は、入居前からのかかりつけ医に継続し受診している。またかかりつけ医外へも、症状やご家族の希望があれば、かかりつけ医と相談し対応している。	協力医療機関は、中心市街地であることから県立病院や近隣の民間医療機関である。利用者は、入居前からのかかりつけ医に引き続き受診している。通院には、家族の同行もあるが、看護師または管理者が付き添うことが多く、その場合は受診結果内容については、メモを家族に渡し報告している。歯科のかかりつけ医に通院する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は介護職共に日々のケアに当たっている。その中で情報共有したり、介護職が体調不良者の対応の仕方や相談ができ環境にある。なお通院介助にて医師や薬局等関連機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず入院前の情報提供を行っている。入院後も医療連携室と情報の共有を行い状況に合わせて対応している。入院以外でも、施設への入所の相談や空き部屋の確認などで連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時や第一回目の担当者会議で重度化・終末期の方針を説明し、現時点でのご家族の意向をお伺いしている。ご家族の意向は状況に応じ変化していくものと考え、プレッシャーにならないよう配慮し担当者会議や特変時に再度確認を行っている。	入居時には、利用者及び家族に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、了承を得ている。機械浴や やわらか食などの対応は可能であるが、医療的な支援が必要となる場合には、事業所での対応が難しい。その際には、利用者本人や家族等と相談しながら対応を検討していく。	

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師が主体になり、急変時・感染症の研修を行っている。急変時マニュアル・利用者の情報ファイルを作成し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	前回外部評価後、消防の立ち合いのもと訓練を行い、それ以降年に2回の消防訓練を実行している。運営推進会議にて、消防訓練の内容の報告を行い共有はしているが、地域の方が参加する消防訓練はできていないため今後の課題である。	ハザードマップ上では洪水浸水指定区域に位置しているが、利用者は建物の2階で生活しているため、状況に応じて2階に留まるか、法人が運営する系列施設へ早めに避難することを想定している。火災の避難訓練は年2回実施しており、隣接する岩手県職員宿舎への避難についても了承を得ている。また、食料は3日に1度冷凍食材が届き、発電機や携行缶、懐中電灯、ろうそくなども備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居時やご家族の情報を基礎に、日々生活していく中で一人ひとりを理解し、人格の尊重しプライドを傷つけない言葉かけに努めている。	入居時に家族から職歴やこれまでの人付き合いについてお聞きし、入居後の様子も踏まえて利用者への理解を深めている。排泄や入浴の介助にあたっては、戸を閉める音やこえのにおいの伝わり方など、利用者のプライバシーを最大限尊重するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人と話す機会を多く持ちお互いの信頼関係の構築に重点を置いている。その中で、本人の希望に寄り添い支援していきたい。自己決定に関してもコミュニケーションの中で自分で判断したり意見を言えるよう導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の日課をベースに、その時の本人の体調や気分に合わせて強要にならないよう、時間をずらしたり日にちを変えたり、本人の意思やペースに合わせて支援している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	なかなか化粧をする機会はないが、化粧水や保湿クリームを愛用している方などは、薬王堂へ一緒に買い物に行き好きなものを購入し使用している。外出時は服装を自分で選んでもらい普段と違う気持ちで外出できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事形態は、普通食・やわらか食・ムース食の三形態あり個々に合わせ提供している。おやつは、ゼリーやプリンを手作りしたものや市販のお菓子を提供している。その他に、本人の希望する食べ物は小さく購入し食べている。食後の片づけは、できる方々でテーブル拭きやトレイの消毒を手伝っていただいています。	ごはんのみそ汁以外は外注の冷凍食品であるが、やわらか食などもあり、利用者一人ひとりに合わせて提供している。午前中にはコーヒータイムを設け、医師からの制限がなければ利用者個人のお菓子も一緒に楽しんでもらっている。午後にはおやつ時間を設けている。恒例の秋のさんま祭を再開し、「脂がのってて美味しかった」と好評であった。食後の片付けについては、できる方にはテーブル拭きなどをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	副食は外部の食品メーカーより仕入れており栄養バランスは考えられている。食事摂取量のチェックも毎食行っており特変時は看護師・主治医に情報提供している。水分は毎食時・10時にコーヒータイム・15時のおやつの際に必ず提供しており、お茶・スポーツドリンクはいつでも飲めるように常に準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯みがき・うがいを行っており、食後口腔内に残滓が残らないよう注意している。義歯や口腔内の異常時には協力歯科医院の往診で対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	現在おむつ交換の方はおりません、排泄チェック表を活用しながら、なるべくトイレで排尿・排便ができるよう定時誘導や声がけを行っております。その他に個別のサインを見つけトイレ誘導を行っています。	現在8人の利用者のうち、布パンツ1人、リハビリパンツ7人の状況であり、トイレでの排泄を基本としている。排泄チェック表をもとに誘導を行い、トイレのドアを閉める、居室内が見えないようにするなど、プライバシーの保護に配慮している。車椅子利用者は5名と多く、(半)介助が必要ではあるが、おむつ交換やポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	入居前の情報や日々の生活の情報をもとに、個別で飲食物を追加してみたり、体操や散歩等体を動かす機会を作ったり工夫しています。それでも便秘が続くときなどは主治医に相談し指示を受けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回の入浴を行っている。体調や気分が拒否があるときは無理に入浴せず、入浴の順番を変えてみたり、可能な時は入浴日の変更をしている。	入浴は週2回、基本的に午前中に実施している。入浴を嫌がる利用者には、その方に合わせた工夫をして対応している。機械浴対応の浴室を備えているため、浴槽を跨ぐことが難しい利用者でも安心して入浴できている。入浴剤は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的に自由に寝たり起きたりと生活されており、体調や個々の状況に応じ臥床対応や昼寝対応を行っている。夜間、眠れない時や不穏時ができる限りホールで一緒に過ごしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	居宅訪問管理指導を導入し月二回の薬剤師の訪問・薬の管理を行っていただいている。訪問時には、契約者のバイタル測定・状況報告行い適切に管理している。その他介護スタッフの薬についての質問の対応や指導を行っていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	フロアーのモップ掛け・洗濯たたみ等日常の中での役割を個々に合わせ行っている。趣味活動でプランターでの野菜栽培・編み物を行ったり、入所者に希望を問い可能な限り対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別でのドライブや外出を少しずつだが増やしている。地元のお祭りの見学・紅葉ドライブ・買い物など、できる限り本人の希望に添えるよう努力している。	個別対応ではあるが、まつりや紅葉ドライブに出かけている。9月には「釜石よいさ」を見学に行き、たこ焼きやジュースを屋台で買って楽しんだ。現在は外食レクリエーションの実施も検討中である。今年は日差しが強過ぎたが、プランターで野菜を栽培した。通院の帰りに近隣のドラッグストアへ立ち寄ったり、県立釜石病院内のコンビニで買い物をする利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居時に個別にお小遣いを預かり、個別の金庫・現金管理表で管理している。本人の希望で買い物に外出したり、買い物代行したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話や手紙は希望に沿い自由に行えるようになっていきます。携帯電話を持参している利用者もあり、ご家族やご友人と電話をされている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を出す飾りつけをしたりお花をテーブルの飾ったりしている。ホール内もなるべくごちゃごちゃしないよう整理整頓に気を付け落ち着いた空間づくりに気を付けている。	建物の2階がグループホームになっており、広いホールにはテーブルやいす、ソファが置かれ、畳敷きの小上がりもある。1階は床暖房で、その温もりが吹き抜けを通じて2階まで届いている。壁には、七夕の時期には願い事の飾りなど、利用者と職員が共に制作した季節の作品が飾られ、温かい雰囲気醸し出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	基本的にテーブル席は決まっているが希望等によりいつでも変更可能である。できる限り気の合う利用者同士で過ごせるよう支援している。利用者の中にご夫婦が2組おり夫婦の時間をゆっくり過ごせるよう席等配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居相談の時に居室の間取りを見ていただき、持ち込める物の相談やアドバイスを行っている。入居後もご家族や本人の希望に応じてベッドの配置を変えたりテーブルや椅子を配置したり個人にあった居室づくりを心掛けている。	居室にはベッドやクローゼットが備え付けられており、希望に応じて椅子も用意している。利用者の中には衣装ケースを持ち込む方や、遺影を飾られる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の能力に合わせ、トイレが近い居室を選択したり、居室が近いテーブル席にしてみたり、見守りの中で自分でトイレまでいけたり、居室まで帰れたりと環境を整理することでできることを増やしていきたい。		